

## 第 17 回人文社会科学部地域史シンポジウム実施報告書

茨城大学人文社会科学部主催の第 17 回人文社会科学部地域史シンポジウム「北関東の豪族たちⅡ—「長者」たちの萌芽と基盤—」について、令和 5 年 2 月 11 日に茨城大学講堂にて開催し、その際、学びを兼ねた運営に携わった学生に対し、人文社会科学部後援会の支援を受けましたので、下記の通り報告します。

### 記

#### 【催事概要】

準備・運営 9:30～ 茨城大学学生（会場設営、駐車場整理、受付、道案内等）

開 会 12:30～12:35 高橋 修（茨城大学評議員・人文社会科学部副学部長）

趣旨説明 12:35～12:50 田中 裕（茨城大学人文社会科学部教授）

基調講演 12:50～14:20 西川 修一（神奈川県高等学校教諭）「海の古墳について」

基調報告 1 14:30～15:00 稲田 健一（ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社）「ひたちなか海浜古墳群と装飾古墳からみた交流」

基調報告 2 15:30～15:30 海老澤 稔（元茨城県教育財団）「7 世紀後半の常陸国河内評嶋名里の様相—つくば市熊の山遺跡群と高山古墳群の調査成果から—」

事例報告 15:30～15:50 菅原こすず（茨城大学学生）「古墳時代後期における関東と九州の共通性—地域的特徴をもつ土器に注目して—」、山崎颯太・稲葉祐真（茨城大学大学院生）「ひたちなか市三反田古墳群の測量調査—筑波山系埴輪の新資料—」

討 論 16:00～16:50 パネラー：西川修一・稲田健一・海老澤稔、コーディネーター：田中裕

閉 会 16:50～17:00 片口 直樹（茨城大学五浦美術文化研究所長）

閉場準備 ～17:30 茨城大学学生（駐車場整理、会場片付け、アンケート回収、機材搬出）

### 【活動報告】

・来場者 138名

・学生運営参加者 38名（シンポジウム報告者3名、パネル展示作成者10名を含む、別紙名簿の通り）

・活動概要 新型コロナウイルス感染症対策のため、二年間にわたり対面での催事実施が困難であった

中、一般の方々を対象として直接に人を迎えて催事を運営する体験は、大変貴重な機会となった。催事

の空白期間が長く、引き継ぎが困難な中で、一から企画する苦労を身にしみて味わうことができたと思

料する。今回は、シンポジウム本体に学生報告者として3名（登壇は2名）が参加するとともに、考古

文化遺産実習メンバーによるフィールド調査報告をパネル展示によって実施することにより、日頃の

学修・研究成果を活かし、運営だけでなく学術成果を広く普及する活動にも携わることができた。

### 【後援会支援内容】

学生運営参加者38名につき、昼食の補助（550円×38名＝20900円）を支出していただいた。

令和5年2月20日

第17回地域史シンポジウム担当 田中裕